

上野原縄文の森 園地管理業務委託仕様書

- 1 委託業務名 鹿児島県上野原縄文の森の園地管理業務委託
- 2 委託場所 鹿児島県上野原縄文の森
(鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森地内)
- 3 業務内容 園地内における樹木及び芝生等の管理業務
- 4 委託期間 令和8年4月1日から令和13年3月31日まで
(5年間)

第1章

第1条 この仕様書は、上野原縄文の森園地管理業務委託に適用する。

第2条 上野原縄文の森は、上野原遺跡の適切な保存に努めるとともに、縄文の世界と向き合い、ふれ合い・学び・親しむ場として南の縄文文化を核に調査研究・体験・交流・学習等の拠点機能を整備したものである。特に、屋外の植栽については、「国内で最古・最大級の定住化した集落跡」が発見された見学エリア側には、約10,600年前を象徴する落葉広葉樹を植栽するとともに、国の重要文化財に指定された壺形土器や土偶など多数の遺物が発見された体験エリア側には、約8,600年前を象徴する照葉樹を植栽し、当時の森を再現したものである。

- 2 園地管理にあたっては、このような当該施設の特性を踏まえ、歴史的景観の創造に向けて、業務委託契約書、設計書及び本仕様書によるほか、「造園施工管理技術編」(一般社団法人日本公園緑地協会)及び「造園修景積算マニュアル」(一般財団法人建設物価調査会)により管理にあたるものとする。

第3条 受託者は、調査、計画、管理、出来高成果及び検査等のため、専属として経験のある技術者を常置し、委託者の指示に応じなければならない。

第4条 この仕様書及び設計書に記載されていない事項で疑義が生じた場合は委託者と協議し、その指示によるものとする。

第5条 本業務の数量は別紙設計書のとおりとする。

- 2 数量に変更を生じた場合は変更契約の対象とする。

第6条 本業務は、前払金を10分の6の範囲内で支払うことができる。ただし、部分払いは行わないものとする。

第2章 管理・報告

第7条 受託者は、芝刈り及び薬剤散布等で、作業エリア内に関係者以外の立入を禁止する場合や施設利用者に迷惑をかける作業の場合は、作業範囲を明確にするとともにバリケード及びロープ等で囲い、注意標識等を施設利用者の見やすい場所に設置するものとする。

第8条 受託者は、管理作業計画に基づき管理を行うものとする。

2 それぞれの作業員は、委託者と協議し作業の工程管理に留意するものとする。

3 受託者は、四半期毎の作業実績を翌月10日までに報告するものとする。報告内容は、業務実施状況報告及び作業写真集（作業前・作業中・完成及びその他必要な状況など）とする。

第9条 受託者は、四半期毎の業務実施状況報告の提出後及び委託者が必要と認めるときは、委託者の検査を受けなければならない。

2 受託者の代理人は、検査に立ち会わなければならない。

第3章 樹木管理

第10条 剪定

高木・中木の管理にあたっては、枯木取り・枝抜剪定等の補助的な剪定にとどめ、基本的には自然成長とし、作業にあたっては委託者と事前に協議し、承認を受けてから行うものとする。

2 低木については、委託者と協議し所定の樹形・高さに剪定及び刈込むものとする。

3 剪定した枝葉は破砕し、樹林内に散布処理するものとする。

第11条 施肥

施肥にあたっては、樹木が濃度障害を受けやすいため、肥料の濃度・溶解速度等を勘案して施肥位置を決定し、施肥方法は壺肥とする。

2 施肥量は、土壌状態・樹種及び樹勢を勘案して施すものとする。

第12条 病虫害防除

病虫害による被害が発見された場合は、速やかに原因を調査し委託者と防除方法等について協議し、適切に処置するものとする。

- 2 薬剤散布に際しては、仕様マニュアルを遵守し利用者に対する安全を確認するとともに、周辺環境に注意して行うものとする。

第13条 食用植物等植込地除草

植込地の除草方法は、原則として人力による抜取り除草とする。

第14条 灌水

夏期における干ばつ時期等乾燥が続く場合は、適宜灌水を行うものとする。

第4章 芝生管理

第15条 芝刈

危険防止のため、作業開始前に作業範囲の石ころ等を除去し、刈高20mm～30mm程度に刈込む。刈込み後の茎葉はレーキ等で集め、必要に応じて場外処分とする。

第16条 除草

芝生の除草は人力除草とし、著しく美観を損なう場合に限り必要最小限にとどめ薬剤除草を行うものとする。

- 2 使用にあたっては、処理方法等について委託者と協議の上、周辺環境に影響をきさないよう十分注意して行うものとする。（休園日に実施すること。）

第17条 病虫害防除

芝生の育成環境を良好に保ち、病虫害の未然防止に努めるとともに被害が発生した場合は委託者と協議し、速やかに薬剤等による適切な処置を行うものとする。薬剤散布に際しての安全対策及び利用者への周知は、樹木の病虫害防除と同様とする。

第5章 樹林その他の管理

第18条 樹林地帯については、自然樹林の景観を形成することとしているため、利用上支障のある場合を除いては、除・間伐、枝打ち及びつる切りは行わないものとする。

- 2 園路沿いについては、委託者の指示により下草刈りを行うものとする。
- 3 除・間伐の対象の樹木は、次のとおりとする。

なお、除・間伐を行う場合には事前に委託者に協議を行うものとする。

- (1) 枯損木、病虫害の被害木及び傾倒木
- (2) 密生して育成が劣っている劣勢木
- (3) 樹林の目的及び機能から、不要となった樹木

(4) 防災上その他影響を及ぼす樹木

第19条 見学エリア及び体験エリアの池・小川の除草及び清掃並びに雨水升の清掃を適宜行うものとする。

第20条 アスレチック，バリカー，門扉，屋外サイン及び園路等の工作物の安全性・機能性等について点検し報告するものとする。

第21条 園地清掃

開園日は，速やかに園地を巡視し，ゴミの除去及びベンチの座面を清掃し，来園者が快適に利用できるよう管理するものとする。

(駐車場，園路，復元集落，国指定史跡，展望の丘，祭りの広場及びベンチ)

第6章 安全管理

第22条 受託者は，労働安全衛生法，同施行令及び同施行規則を遵守し作業を行うものとする。

2 受託者は，作業に際して事前に既存施設及び埋設物等の調査を行い，支障をきさないよう必要な措置を講ずるものとする。

3 受託者は，作業管理に関連した事故，苦情及びトラブルが発生した場合，遅滞なくその状況を委託者に報告するとともに，責任を持って対処・解決するものとする。

上野原縄文の森園地管理要領

上野原縄文の森は、上野原遺跡の適切な保存に努めるとともに、縄文の世界と向き合い、ふれ合い・学び・親しむ場として南の縄文文化を核に調査研究・体験・交流・学習等の拠点機能を整備したものである。特に、屋外の植栽については、「国内で最古・最大級の定住化した集落跡」が発見された見学エリア側には、約10,600年前を象徴する落葉広葉樹を植栽するとともに、国の重要文化財に指定された壺形土器や土偶など多数の遺物が発見された体験エリア側には、約8,600年前を象徴する照葉樹を植栽し、当時の森を再現したものである。

園地管理にあたっては、このような当該施設の特性を踏まえ、歴史的景観の創造に向けて、業務委託契約書、設計書、仕様書及び本要領により管理にあたるものとする。

1 樹木の管理

樹木の管理にあたっては、樹木の植栽目的や機能を十分発揮できるように、定期作業、不定期作業及び臨時作業ごとに分類し、適切な時期に効果的に実施するものとする。

(1) 剪定

高木・中木の管理にあたっては、枯木取り・枝抜剪定等の補助的な剪定にとどめ、基本的には自然成長とし樹木の自然に備わった樹形を残しながら、樹枝の骨格・配置をつくる整枝剪定を行うものとする。

低木については、委託者と協議し所定の樹形・高さに剪定し刈り込むものとする。

なお、剪定した枝葉は破碎し樹林内に散布処理するものとする。

(2) 病虫害防除

病気や害虫の発生時期は、病原菌や害虫の種類によって異なり、またその年の気象にも左右されるが、発生時期にならった点検に努めるものとする。

病気や害虫の発生を発見した場合、速やかにその種類・性質等を見極め早急に処置するものとする。

なお、可能な限り薬剤防除を抑えることによる「総合防除」の観点から、予備措置として病虫害に対する抵抗力を増強させる肥培管理、枝抜き及び剪定による通風・採光の確保を図るものとする。

また、農薬は下記の点に留意して安全に使用するものとする。

- ア 使用する人の安全確保
- イ 作物に対する安全確保
- ウ 環境に対する安全確保
- エ 保管と管理の安全確保

(3) 施肥

施肥は樹木の健全な育成，病虫害等への抵抗力の増進及び土壌の改良等のために行うものであることから，使用にあたっては肥料効果を高めるように細根の伸張りに応じた距離に深さを決めた後施肥を行うものとする。

施肥の方法は壺肥とし，高木・低木に限らず穴の深さは20cm程度とする。

(4) 食用植物等植込地除草

植込地の除草は人力除草とし，可能な限り生育初期の段階で除草する。

(5) 灌水

土壌の乾燥が続く夏季及び樹木の育成期は，樹木の生長に支障を及ぼさないように適宜灌水するものとする。

なお，灌水は夏季の日中及び冬季の午後は避けるものとする。

また，灌水を行う際は，土壌を浸食させたり低地に停滞水ができないように時間をかけて行うものとする。

2 芝生の管理

(1) 芝刈り

ア 芝刈りの目的

- ・ 芝生のほふく成長の促進
- ・ 通風及び採光を確保することによる病虫害の予防
- ・ 雑草の侵入抑制
- ・ 美観の維持等芝生の健全な育成

イ 芝刈りの高さ

- ・ 芝生の育成に適していること及び美観の維持のため刈り高は20～30mm程度とするものとする。
- ・ 光線不足や蒸れ等の生理障害を生ずることのないよう，芝生の草丈が40～50mmを超えないようにするものとする。
- ・ 刈り込み後の茎葉はレーキ等で集めて場外処分するものとする。

ウ 除草

芝生地の除草は人力除草とし，著しく美観を損なうと判断される場合に限り，必要最小限の薬剤除草を行うものとする。

なお，薬剤の使用にあたっては処理方法等について委託者と協議の上，周辺環境に影響を及ぼさないよう十分に注意して行うものとする。（可能な限り休園日に実施するものとする。）

エ 作業上の留意事項

- ・ 芝生内にある小石等の障害物は予め取り除いておくものとする。
- ・ 芝生地内にある樹木，草花及び施設等を損傷しないように注意し，刈りむら及び刈り残しのないように均一に刈り込むものとする。
- ・ 縁切りは，寄せ植え及び施設等にはほふく侵入しないよう垂直に切り込み除去するものとする。

- ・刈り取った芝は、速やかに処理するとともに刈り跡をきれいに清掃するものとする。

(2) 病虫害防除

芝生の保護，美観維持及び健全育成を図るため，病虫害防除を行うものとする。

芝生の病気にはサビ病及びハルハゲ病等があり，また虫害には根や茎を食害するものがあるが，これらの病虫害を発見した場合は，速やかに適用薬剤を選択し適切な濃度で散布駆除するものとする。

サビ病・・・水和硫黄剤，イソプロチオラン剤等

ハルハゲ病・・・エクロメゾール剤，クロロネブ剤等

ヨトウムシ・・・アセフェート粒剤，ME P 乳剤等

コガネムシ・・・ダイアジノン乳剤，ME P 乳剤等

3 樹林その他の管理

- (1) 樹林地帯については，自然樹林の景観を形成することとしているため，利用上支障のある場合を除いては，除・間伐，枝打ち及びつる切りは行わないものとする。

ア 園路沿いについては，委託者の指示により下草刈りを行うものとする。

イ 除・間伐の対象の樹木は，次のとおりとする。

なお，除・間伐を行う場合には事前に委託者に協議を行うものとする。

- (ア) 枯損木，病虫害の被害木及び傾倒木
- (イ) 密生して育成が劣っている劣勢木
- (ウ) 樹林の目的及び機能から，不要となった樹木
- (エ) 防災上その他影響を及ぼす樹木

- (2) 見学エリア及び体験エリアの池・小川の除草及び清掃並びに雨水升の清掃を適宜行うものとする。
- (3) アスレチック，バリカー，門扉，屋外サイン及び園路等の工作物の安全性・機能性等について点検し報告するものとする。

4 園地清掃

開園日は，速やかに園地を巡視し，ゴミの除去及びベンチの座面を清掃し，来園者が快適に利用できるよう管理するものとする。

(駐車場，園路，復元集落，国指定史跡，展望の丘，祭りの広場及びベンチ)

5 残滓処理

樹木管理で剪定した枝葉は，破砕し樹林内に散布処理するものとするが，それ以外の園地管理で発生した残滓は場外処分するものとする。